

修士論文（要旨）

2017年1月

トンガ人日本語教師の自律支援に関する考察
- 日本人ボランティア教師とのダイアリー交換の分析を通して -

指導 齋藤 伸子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

215J3005

坂下 太一

Master's Thesis (Abstract)
January 2017

A Study of Support for the Development of Autonomy among Tongan Instructors
: An Analysis of Diary Exchanges with Japanese Volunteer Instructors

Taichi Sakashita

215J3005

Master's Program in Japanese Language Education

Graduate School of Language Education

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Nobuko Saito

目次

第1章 研究背景	
1.1 トンガ王国における日本語教育の概要	1
1.2 トンガ人日本語教師への支援	1
1.3 トンガ人日本語教師支援における課題	2
第2章 研究目的	
2.1 トンガ人日本語教師の自律性向上の必要性	4
2.2 自律性向上のための明示的なアプローチと暗示的なアプローチ	4
2.3 本研究における「教師の自律性」と「支援能力」の定義	5
2.4 ダイアリー交換を通じたトンガ人教師自律性向上の支援	6
2.5 研究目的	7
第3章 先行研究	
3.1 教師の成長	7
3.2 学習者オートノミーと教師オートノミー	8
3.3 教師の協働	9
3.4 ダイアリー・スタディー	9
3.5 ジャーナル・アプローチ	10
第4章 調査概要と分析方法	
4.1 調査行程	11
4.2 調査協力者	12
4.3 分析方法	13
第5章 調査結果と分析	
5.1 トンガ王国における日本語教育者の意識調査（調査1より）	16
5.2 ダイアリー交換の結果と分析（調査2より）	25
第6章 考察	
6.1 TF・Aの自律性向上のためのダイアリー交換の有効性	57
6.2 JM・Aの支援能力向上のためのダイアリー交換の有効性	59
6.3 相互理解の深化のためのダイアリー交換の有効性	60
第7章 今後の課題	
7.1 今後の課題	62
7.2 おわりに	65

参考文献

資料

資料1：TF・Aのダイアリー記述とJM・Aのコメントが果たした役割の分析

資料2：JM・Aのダイアリー記述とTF・Aのコメントが果たした役割の分析

要旨

稿者が2010年から2012年までの2年間滞在したトンガ王国では、1985年に日本の無償資金協力でババウ諸島のネイアフ島にババウ・ハイスクールが建設されたことがきっかけとなり、青年海外協力隊員（日本語教育）が派遣され、日本語教育が開始された。現在では日本人ボランティアから日本語の指導を受けたトンガ人教師も教壇に立つようになり、日本人ボランティアにはトンガ人日本語教師の支援も求められるようになった。しかし、稿者の滞在時期を振り返ると、トンガ人日本語教師への支援は、日本人ボランティア教師からの一方的な「指導」に陥ることがあり、トンガ人日本語教師の自律性向上を阻害する要因にもなっていた。

本研究では、トンガ人日本語教師が日本人ボランティアに対して持つ依存意識の解消と、トンガ人日本語教師による自律的、主体的な学びを実現するために、中田（2011）の提唱する教師オートノミーを向上させるための暗示的なアプローチと、留学生へのカウンセリングの手法の一つである倉地（1992, 1994.）のジャーナル・アプローチを参考に、トンガ人日本語教師と日本人ボランティア間でダイアリー交換を行うことにした。本研究の目的は、授業後に記述したダイアリーと、同僚に対してのコメントの中からトンガ人日本語教師の自律性の向上、日本人ボランティア教師の支援能力の向上、相互理解の深化に関わる要素を明らかにすることであり、分析の結果から、トンガ人日本語教師の成長のために、ダイアリー交換がどのような役割を果たすかを考察する。

調査期間は2015年9月から2016年8月までの約1年間で、調査1（2015年9月）のインタビュー調査と、調査2（2016年2月～8月）のダイアリー交換に分類される。調査1の研究協力者は、トンガ王国内で日本語教育が行われている教育機関のうち、日本人ボランティア教師、トンガ人日本語教師が協働でクラス運営を行っている4校7名である。調査2では調査1の協力者の中から、A高校の2名が調査協力者としてダイアリー交換を行った。

調査1の分析結果として、日本人ボランティア教師からは日本語教師としての意識と、同僚であるトンガ人日本語教師への意識を見ることができた。また、トンガ人日本語教師からは、教師としてのモチベーションと、問題意識、日本人ボランティア教師への意識が明らかになった。両者の意識は多くの共通点が見られたが、意識の共有がされていないため、それぞれの抱える問題を解決できていないことが明らかになった。調査2の結果から、ダイアリー交換が果たした役割として、トンガ人日本語教師の自律性向上のためには、日本人ボランティア教師からの直接的な知識を学ぶ場を与えたこと、自己の見直しと視野の拡大を実現していることがわかった。日本人ボランティア教師の支援能力向上のためには、トンガ人日本語教師の自律性向上のためにアドバイジングを行う場を得られたこと等が明らかになった。トンガ人日本語教師 - 日本人ボランティア教師の相互理解の深化のためには、お互いの教授観、問題意識の理解が進んだことと、双方向的に学びあう立場で協働ができることが明らかになった。今後も相互理解の深化が進めばトンガ人日本語教師、日本人ボランティアが協働で、現在の問題に立ち向かえるようになるのではないかと稿者は考える。

参考文献

- ・青木直子「教師の役割」青木直子編『日本語教育を学ぶ人のために』世界思想社、2011年
- ・浅田匠『成長する教師 - 教師学への誘い』浅田匠他編、金子書房、1998年.
- ・岡崎敏雄・岡崎眸『日本語教育の実習 - 理論と実践』アルク、1997年.
- ・笠原ゆう子、古川嘉子、文野峯子「内省活動を取り入れた教授法授業 - 長期研修日本語教授法授業再考 -」『日本語国際センター紀要 5』国際交流基金、1995年.
- ・川喜田二郎『KJ 入門コーステキスト 4.0.』、KJ 法本部・川喜田二郎研究所、1997年.
- ・木谷直之・築島史恵「学院修士課程におけるノンネイティブ現職日本語教師の意識変化 - 学生のジャーナルの分析を通して」『国際交流基金日本語教育紀要 1』国際交流基金、2005年.
- ・竹内理・水本篤『外国語教育研究ハンドブック - 研究手法のより良い理解のために
外国語教育研究ハンドブック - 研究手法のより良い理解のために』松柏社、2012年
- ・倉地暁美『対話からの異文化理解』勁草書房、1992年.
- ・倉地暁美『多文化共生の教育』勁草書房、1998年.
- ・下平菜穂「教師ダイアリー - 自己のダイアリー分析の試み -」『日本語教育論 9 - 平成3年度日本語教育長期専門研修報告 -』国立国語研究所日本語教育センター、1991年.
- ・高橋優子・柴原智代「教員の自己改善における同僚の役割の一考察」『日本語教育論集 9』国立国語研究所日本語教育センター、1992年.
- ・舘岡洋子「協働的学習は学びあいになるか - 学びにつながる協働的学習を考える」『高見澤孟先生古希記念論文集』高見澤孟先生古希記念論文集編集委員会、2006年.
- ・舘岡洋子『ひとりで読むことからピア・リーディングへ - 日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』東海大学出版会、2005年.
- ・中田賀之「学校文脈における英語教師の同僚性とオートノミー」青木直子・中田賀之（編著）『学習者オートノミー - 日本語教育と外国語教育の未来のために（シリーズ言語学と言語教育）』ひつじ書房、2011年.
- ・八田直美「ノンネイティブ日本語教師にとっての「教師の成長」 - 訪日研修参加者へのインタビュー調査から -」『日本語教育の過去・現在・未来 第2巻』凡人社、2009年.
- ・マリー=ジョゼ・グレンモ「言語学習のためのアドバイジング」『学習者オートノミー - 日本語教育と外国語教育の未来のために -』ひつじ書房、2011年.
- ・横溝紳一郎『日本語教師のためのアクション・リサーチ』日本語教育学会編、凡人社、2000年.
- ・ Bailey, K.M. "The use of diary studies in teacher education programs,".1990. In Richards, J. C., and Nunan, D. (Eds.) Second Language Teacher Education, New York : Cambridge.: University Press,1999.
- ・ Holec, H. "Autonomy and foreign language learning. " Oxford: Pergamon Press.1981.
- ・ Wallace, M. J. "Training Foreign Language Teachers: A Reflective Approach." Glasgow. CambridgeUniversity Press. 1991.